

【学校の教育目標】		自立貢献			資質・能力との関連										
【育成を目指す資質・能力】		①課題発見・解決能力	②人間関係形成能力		知識・技能	思考力・表現力・判断力	学びに向かう力・人間性等								
重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当											
【知識及び技能の習得】 自ら学びを調整し、知識を深化させる力の習得	<ul style="list-style-type: none"> 【生徒調査】 学期末アンケート項目「振り返りを活用して自分の学びを改善できている」の肯定率(3,4評価)を75%以上。 【教職員調査】 学期末アンケート項目「振り返りを行わせる際に、視点を提示した授業を毎単元で行った」の肯定率(3,4評価)80%以上。 	学校 ○ 振り返りの質の向上と可視化の推進。	○ 授業者は、「振り返りの視点(キーワード等)」を提示した授業を毎単元実施する。 ○ 単元計画にキーワードを用いた振り返り時間を明示し、ポートフォリオ等で成長を可視化する。		○	○	○								
		家庭 ○ 家庭学習の習慣化	○ 保護者は、各学年で決められた時間(自学KS90)に集中して取り組むよう、家庭で声かけを行う。						○	○	○				
		地域 ○	○										○	○	○
【思考力・判断力・表現力】 課題解決に向けた総合的な思考力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 【生徒調査】 学期末アンケート項目「自主ルール(22時以降使用禁止)を遵守している」の肯定率(3,4評価)を90%以上。 【保護者調査】 学期末アンケート項目「家庭内でニュースや新聞記事を題材に意見交換をしている」の肯定率(3,4評価)を80%以上。 	学校 ○ メディアリテラシー教育の充実	○ 授業者は、SNSやインターネットを活用した情報発信の際の注意点や、情報セキュリティについて、学期に1回は情報モラルに関する授業を行う。		○	○	○								
		家庭 ○ 親子ディスカッション	○ 保護者は、ニュースや新聞記事を題材に、社会で起きている様々な出来事について、親子で意見交換する。						○	○	○				
		地域 ○ このえ学への協力	○ 地域は、ゲストティーチャーとして授業や体験活動・探求活動に対して、学校の要請に基づいて積極的に協力する。										○	○	○
【学びに向かう力、人間性等の涵養】 多様な価値観を創造する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 【生徒調査】 学期末アンケート項目「ICTを活用した交流により、考えが広がった」の肯定率(3,4評価)70%以上。 【教職員調査】 学期末アンケート項目「授業者は、単元に1回以上、生徒がICTを使って考えを交流する場面を設定する。」の肯定率(3,4評価)80%以上。 	学校 ○ 良好な人間関係の構築	○ 学級担任(副担任)は、毎週1回、短時間人間関係づくりプログラムを実施する。		○	○	○								
		学校 ○ 協働的な学びの実施	○ 授業者は、単元に1回以上、生徒がICTを使って考えを交流する場面を設定する。						○	○	○				
		家庭 ○ 家庭内協力体制の構築	○ 保護者は、各自の家庭内での役割分担を明確にし、協力体制を構築する。										○	○	○
		地域 ○ 地域ボランティア活動の推進	○ 地域は、地域で行われているイベントやボランティア活動への中学生の積極的参加を呼びかける。												
【働き方改革の推進】 地域と協働した学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学期末職員アンケートにおいて ①月平均40時間以内に在籍超過勤務時間を抑えられたという肯定的回答をする職員の割合を70%以上。 ②「1学期中に計画年休を2回取得できた」割合を70%以上。 	学校等 ○ 職員会議を学期に1回(年度当初を除く)にし、内容を精選することで放課後の時間を確保する。	○ 3役会・運営委員会を週1回開催し、そこで職員連絡会や職員会議や職員連絡会の内容について確認する。	校長・教頭・主幹・事務	○	○	○								
		学校等 ○ 計画年休の取得(学期中に最低2回取得する)	○ 定期考査期間と職員連絡会の日程調整を行い、年休取得を促進する。					○	○	○	○				
		学校等 ○ 情報共有を確実に行う。	○ れんらく情報のデジタル化を進め、各種会議の効率化を図り、超勤時間を前年度超勤時間比5%削減。									○	○	○	○

該当する項目に○